

RIZIN

CHALLENGE

MMA

OFFICIAL RULES

RIZIN 事務局

I. 試合

- 試合は主催者（RIZIN 事務局）が認めたリングを使用する。
- 本大会の体重制限はフライ級（56.7kg 以下）、バンタム級（61.2kg 以下）、フェザー級（65.8kg 以下）、ライト級（70.3kg 以下）、ウェルター級（77.1kg 以下）、ミドル級（83.9kg 以下）、ライトヘビー級（93kg 以下）、無差別の階級制で行う。ただし、女子の場合はアトム級（47.6kg 以下）、ストロー級（52.2kg 以下）も設定する。ただし、このルールはアマチュアルールのため、大会の参加人数の都合上、上記階級で行なわれない場合もございます。計量は大会当日に主催者の指定する時間に行う。パスしなかった選手は再計量を行うが最終計量は30分以内とする。
- 試合は1ラウンド3分の2ラウンド制とし、ラウンド間のインターバルは1分間とする。なお、延長戦は行わない。
- 選手は必ずマウスピース、ファールカップ、ニーパッドを着用する。
- 選手は主催者の用意するオープンフィンガーグローブ、ヘッドギア、レガースを着用しなければならない。
- 試合に際して、道着、エルボーパッド、シューズ、アンクルサポーターは選手の任意で着用することができる。但し、ルールミーティングの際に着用する装備品を持参し、レフェリーのチェックを受けるものとする。
- バンテージ、テーピングの使用は選手の任意とするが、レフェリーのチェック及びサインを必要とする。
- 選手は、顔、髪を含め身体のいかなる部分にも、オイル、ワセリン、グリース、痛み止めやマッサージ用のクリーム等を塗布してはならない。

II. 勝敗

- RIZIN CHALLENGE 公式ルールにおいては、以下の状況下で勝敗を決定する。
 - ・ギブアップ
マットか相手の体を3回以上叩くか、口頭でギブアップの意思表示をした場合
 - ・レフェリーストップ
レフェリーがこれ以上の試合続行は危険であると判断した場合

- ・ドクターストップ

リングドクターが負傷した選手の試合続行を不可能と判断した場合

- a. 負傷の原因が相手の正当な攻撃、または負傷した選手自身にある場合、負傷した選手を敗者とする。
- b. 負傷の原因が相手の反則による場合、負傷した選手を反則勝ちにする。

※負傷した選手のドクターチェックは、ニュートラルコーナーでレフェリー立ち会いのもとで行われ、セコンドがこれに介入することはできない。
診断の対象ではない選手は、反対側のニュートラルコーナーで待機する。

- ・試合放棄

セコンドがタオルをリング内に投入した場合

- ・失格

1度目の反則に「注意」、2度目の反則に「警告」、それぞれにイエローカードが提示され、3度目の反則にはレッドカードの提示とともに「失格」とする。また、「注意」「警告」の段階でレッドカードが提示された場合は、失格とならないものの、重度の反則として判定の際、大幅な減点となる。レフェリーは反則の回数に関わらず、悪質な反則行為には即失格とする権限を持つ。

- ・装備品破損

マウスピース、ファウルカップ、スパッツなどのコスチュームが破損し、試合を続けられない場合は、失格となる。

- ・ノーコンテスト（無効試合）

- a. 一方または双方に不正行為があった場合、もしくは第三者介入による不正行為が試合中に認められた場合、ノーコンテストとする。
- b. 偶発的な事故等により試合続行が不可能となった場合、ノーコンテストとする。

- ・判定

全ラウンド終了時点で勝敗が決しない場合は、ジャッジ3名による判定に委ねられる。

- ・ドロー裁定

判定の結果、両選手ともに2名以上の支持を得られなかった場合、引き分けとする。

Ⅲ. 判定基準

● 試合が判定となった場合、以下の優先順位で全を通して総合的に判定する。

1. 相手に与えたダメージ
2. ギブアップ勝ちにつながるアドバンテージ
3. 攻防の主導権
4. 積極性
5. 印象

※反則による減点は、その度合により各ジャッジがそれぞれ考慮し、判定に反映させる。

Ⅳ. 反則

●以下の行為は全て反則とし、減点、失格の対象となる。

1. 噛みつき
2. 目つぶし、及び目をえぐる行為
3. 頭突き
4. 肘打ち
5. 金的攻撃
6. 肛門、口腔、鼻孔、眼球等の粘膜部に指を引っかけて相手をコントロールする
7. 手足の指に対する関節技
8. 膝による首から上への一切の攻撃
9. 両者、またはどちらか一方の選手がグラウンド状態となった場合、首から上への一切の打撃攻撃（パンチ・キック・膝）は禁止となる

※グラウンドの定義

足の裏以外の体の部位が、1点以上マットに着いた状態
(膝、片手、片膝、おしり、背中など各1点でグラウンド)

9. 消極的姿勢及び有効的でない攻撃を続ける
10. 頭髪を掴む
11. 相手をリング外へ投げる、または押し出すこと
12. ロープを掴む、またはロープに手足を引っかける
13. リング外へ逃げる
14. 喉、または後頭部、延髄、脊髄への打撃攻撃
15. 喉を掴む攻撃

17. 自身または相手のグローブ、装備品、シューズを掴んで攻防をすること

18. ヒールホールドの使用

V. レフェリーの指揮

- レフェリーの指示、裁定は絶対的なものであり、選手とセコンドは服従しなければならない。
- ロープ際の攻防で選手が落ちそうになったとき、またはロープが著しく攻防の妨げになっている場合、レフェリーはブレイクを命じ、リング中央で両者スタンド状態から試合を再開する。
- いかなるポジションの攻防であっても、レフェリーが膠着状態であると判断した場合、ブレイクを命じ両者スタンド状態から試合を再開する。
- 試合進行上、ルールに明記されていない不足の事態に際しても、レフェリーの決定に従わなければならない。

その他 健康面

- ドクターチェックは大会当日、試合前に必ず受けるものとする。
- 本試合より45日以内に、あらゆる試合においてKO、もしくはTKOをされている場合は、本試合に出場できないこととなる。
- 適切な医療従事者により、HIV、B型・C型肝炎の検査を受け、証明書を提出しなければならない。(証明書は、1年以内のものであれば可。)
- 試合の前後24時間以内の飲酒は絶対厳守とする。
- 大会中に選手、セコンドがスポーツマンシップに反するような暴言や態度の場合は即刻退場とさせていただきます。
- 控え室に入れるパスは選手1名に対しセコンド1名のみで、それ以外の方へのパスの発行は認めません。パスの無い方を控え室や関係者以外立ち入り禁止区域で見つけた場合は即刻退場とさせていただきます。
- 選手は試合当日、グローブを着用する前に必ず検査員によるグローブチェックと、グローブを封印したテープにサインを受けなければならない。また、一度封印された後は、試合終了までグローブを外すことはできない。
- セコンドは1名までとし、試合中は自軍のコーナーから離れてはならない。また、試合中セコンドが選手に直接接触した場合、そのセコンドの退場を命ずるか、そのセコンド側のレフェリーの選手に反則としての罰則を与える。

- 契約体重を時間内にパスしなければ下記の通り罰則を課せられる。
 - ・ 0.5 kg未満の超過→「注意」（イエローカード1枚）を課せられて試合出場となる。
 - ・ 1 kg未満の超過→「警告」（イエローカード2枚）を課せられて試合出場となる。
 - ・ 1 kg以上の超過→「失格」（レッドカード）となる。
- 選手、セコンドがレフェリーの裁定に異義を申し立てる場合、試合終了後2週間以内に文書で提出すること。リング上を含め直接抗議することは禁止する。
- マウスピース、ファウルカップ、スパッツなどのコスチュームが破損し、試合を続行できない場合は、失格となるので、予備を準備しておくことが望ましい。

以上